

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・中国向けの半導体関連、自動化設備等の需要が強く、好況である。
- ・半導体製造装置向けは一部部品で過去最高の出荷を記録しており、好況である。
- ・感染症の影響により、不況である。

【売上高】

- ・売上高は前年同期比50%増加した。
- ・前年は感染症の影響で3割減だったが、現在は影響を受ける以前の水準に戻っている。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【品目別の状況】

- ・半導体製造装置向けは増産依頼があり、好調は継続している。
- ・産業機械関連の受注は回復傾向にあるが、いまだに好調期の8割程度である。

【受注単価】

- ・鋼材単価上昇分の受注単価への転嫁を試みているが、あまり進まず、ほとんど変わらない。
- ・OEM販売の割合が多く、あまり変わらない。

【原材料価格】

- ・鋼材、樹脂部品を中心に原材料価格が上がった。
- ・原材料価格はあまり変わらない。

【その他諸経費】

- ・諸経費はあまり変わらない。
- ・システム関係費、修繕費等が増加した。

【採算性】

- ・工場の稼働率が高まり、収益性が向上している。
- ・売上増加に伴い収益性が改善している。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・生産性向上を目的とした工作機械を新規に導入した。
- ・I o Tに対応した設備に入れ替える方針。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・半導体製造装置向けの受注は好調継続見込である。
- ・半導体需要は継続しそうだが、在庫調整等も予想されるため、どちらともいえない。
- ・今後はどちらともいえない。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・景況感は好況である。
- ・半導体不足の影響で受注が不安定となっており、景況感は普通である。
- ・半導体不足による自動車の生産減の影響が出てきており、不況である。

【売上高】

- ・売上高は前年同期比40～60%増加した。
- ・売上高は前期比減少した。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原材料価格は上がった。

【その他の諸費用】

- ・諸経費はほとんど変わらない。
- ・製造経費が増加した。

【採算性】

- ・IoT活用による見える化で業務効率を見直し、採算性が良くなった。
- ・売上高が増加しており、前年同期比で採算性が向上した。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・生産増強及び入替の設備投資を実施した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・半導体不足による自動車の生産調整が出ており、どちらともいえない。
- ・先行きは悪い方向に向かうとみている。

(3) 電気機械器具**【景況感】**

- ・取扱い製品全体で受注が落ち込んでおり、景況感は不況である。
- ・半導体関連の受注があり、景況感は好況である。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・半導体関連の受注が増加したことから、売上高は増加した。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原材料価格は銅価格が上がった。

【その他の諸経費】

- ・製造経費が前年同期比で上昇した。
- ・諸経費はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・採算性は悪くなった。
- ・半導体関連の売上高が増加し、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・設備更新を目的とした設備投資を実施した。
- ・増産のため新たに機械装置を導入する方針。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・世界中に感染症の影響が広がっており、当面は悪い方向に向かうとみている。
- ・先行きはどちらともいえない。
- ・感染症のワクチン接種も進んでおり、先行きは良い方向に向かうとみている。

(4) 金属製品**【景況感】**

- ・自動車からアミューズメント関連まで全体的に受注が回復せず、景況感は不況である。
- ・半導体関連は受注が多く、景況感は好況である。

【売上高】

- ・半導体関連以外の受注が回復せず、売上高は減少した。
- ・売上高は前期比、前年同期比ともに増加した。

【受注単価】

- ・受注単価は変わっていない。

【原材料価格】

- ・原材料価格は全体的に値上がりしている。
- ・鋼材価格が上昇した。
- ・原材料価格は前年同期比で上がった。

【その他の諸費用】

- ・諸経費が前年同期比で増加した。
- ・その他諸経費はあまり変わらなかった。

【採算性】

- ・原材価格の上昇が影響し、採算性が悪化した。
- ・採算性は前期比、前年同期比ともに良くなった。

【設備投資】

- ・既存設備のオーバーホールを実施した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・景況感は悪い方向に向かうとみている。
- ・感染収束次第だが、良い方向に向かうとみている。

(5) プラスチック製品**【景況感】**

- ・好況である。
- ・医療関連、食品関連は好調である。

【売上高】

- ・売上高は増加した。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格は上がった。
- ・9月に値上げがあった。

【人件費】

- ・新入社員が入り人件費が増加した。
- ・売上増加に伴い人件費も増加した。

【採算性】

- ・売上高の増加と諸経費の減少が寄与し、採算性は良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・製品在庫用倉庫の設備投資を実施した。
- ・補助金を活用した設備導入の予定がある。

【今後の見通し】

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみている。

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

- ・埼玉県内で廃業が増えている。
- ・原材料費が全体的に値上がりしている。

【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・昨年の巣籠もり特需に比べれば普通である。

【売上高】

- ・前年同期比で売上高は増加したが、前々年比に対しては90%程度の水準である。
- ・人気商品が売上に貢献したため、前年同期比で売上高は増加した。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらなかった。

【原材料価格】

- ・原材料価格は上がった。
- ・7月に小麦粉の値上げがあった。

【人件費】

- ・採用を増やしたほか、最低賃金の改定により人件費は増加した。
- ・人件費はほとんど変わらなかった。

【採算性】

- ・原材料費が上がり、採算性が悪くなった。
- ・採算性の良い商品の比率を高めたため、改善された。

【設備投資】

- ・新工場の建設と生産設備の導入を実施した。
- ・商品の改良と生産増強のため、製造ライン強化の設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・原材料の高騰と売上高の減少により悪い方向に向かうとみている。
- ・新商品の販売と新規取引先の増加により前年比で売上高は増加見通し。

(7) 鋳鉄物

【景況感】

- ・工作機械用鋳物部品の受注が増え、景況感は好況である。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高はあまり変わらない。
- ・前年同期比では少し増加したが、前々年の売上高には及ばない。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格は上昇した。

【人件費】

- ・人件費はほとんど変わらない。
- ・売上増加に伴い人件費も増加した。

【設備投資】

- ・設備投資は行わなかった。
- ・既存設備のオーバーホールを実施した。

【今後の見通し】

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・感染症の収束次第だが、どちらともいえない。

(8) 印刷業

【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・緊急事態宣言の発出により取引先のイベントが延期や中止となってしまった。
- ・緊急事態宣言下で営業活動にも支障が出ており、受注が回復していない。

【売上高】

- ・販促物や注文ロットの減少により、売上高は減少した。
- ・前年同月比では増加予定だが、前年も感染症の影響で売上高は落ち込んでいた。

【受注単価】

- ・特殊な印刷や施工が含まれる場合は単価を上げて受注している。
- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・全体の受注金額が少ないため、収益性は下がっている。
- ・ほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・製版の検版台を設置した。
- ・品質検査装置の更新や印刷機ラインの修繕で設備投資予定。
- ・できる限り支出を抑えるため、設備投資は実施しない。

【今後の見通し】

- ・当面は厳しい状況が続くとみている。
- ・今年度4月以降の実績をみると、悪い方向に向かうとみている。
- ・大型案件の受注があり、良い方向に向かうとみている。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・地方、郊外店は引き続き厳しい状況が続いている。

【売上高】

- ・7月は衣料品や化粧品が厳しい中、食料品は堅調に推移していたが、8月に入り緊急事態宣言と都内百貨店での感染者報道等により食料品も含めて厳しさが増す状況となった。
- ・巣籠もり需要により前年は不調であった和菓子、洋菓子が復調傾向にある。
- ・宝飾品も全体としては苦戦しているが、一部富裕層の購買意欲は継続しており、伸長が期待される。

【諸経費】

- ・人件費は自然減が続いている。
- ・広告宣伝は紙面縮小等により経費削減した。

【採算性】

- ・緊急事態宣言の影響で売上減となり、採算性が悪くなった。
- ・人件費や販促費の削減により前年同期比で採算性は良くなった。

【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第だが、衣料品、化粧品は厳しい状況が続くとみている。
- ・長引くコロナ禍で消費動向の不透明感が続き、悪い方向に向かうとみている。
- ・感染症の状況によるため、どちらともいえない。

(2) スーパー

【景況感】

- ・地域格差が出ており、地方ほど販売額が伸び悩んでいる。どちらともいえない。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・緊急事態宣言による外食自粛の影響で総菜の売上げが伸びている。
- ・前年も巣籠もり需要があり、前年同期比では売上高はほとんど変わらない。

【諸経費】

- ・人件費を中心に経費は増加した。
- ・改装に伴う諸経費が増加した。

【採算性】

- ・感染防止や人件費等の諸経費が増えたため、採算性は悪化した。
- ・採算性は悪くなった。

【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第のため、どちらともいえない。
- ・景況感は悪い方向に向かうとみている。

(3) 商店街**【景況感】**

- ・外出自粛の影響で人通りが減っており、不況である。
- ・緊急事態宣言の影響で飲食店は休業しているお店が多く、不況である。

【来街者】

- ・緊急事態宣言の影響で、前年同期比で来街者は減少した。
- ・近隣住民の買い物の回数も減っており、減少した。

【個店の状況】

- ・元々の営業時間が短い飲食店などは厳しい状況にある。
- ・協力金や休業期間を活用し改装に充てているお店もある。
- ・飲食店ではテイクアウトを新たに始めているお店が増えた。

【商店街としての取組】

- ・イベントの準備をしていたが、緊急事態宣言が発出され中止となった。
- ・緊急事態宣言等の影響で特別な取組はできなかった。

【今後の見通し】

- ・感染症の状況やワクチン接種の進捗次第であり、どちらともいえない。
- ・今後の見通しは悪い方向に向かうとみている。

3 情報サービス業**【景況感】**

- ・業界自体が直接的な影響を受けづらいため、現時点では景況感は普通である。
- ・前年同期に比べれば営業活動等が活発化している。
- ・景況感は好況である。

【売上高】

- ・一般法人、公共分野ともに前年同期比では増加傾向にある。
- ・売上高は前年同期比で増加した。
- ・首都圏が7月から緊急事態宣言等の対象地域となった影響で企業活動の停滞がみられ、前年同期比で売上高は減少した。

【製品価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品が多く受注内容で異なるため、ほとんど変わらない。

【採算性】

- ・売上高が減少した一方で人件費、諸経費の増加があり採算性はやや悪化した。
- ・全体として採算性はほとんど変わらない。
- ・業務効率化を一層進めた結果、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・経営効率化のためのシステム構築を実施した。
- ・オフィス内の設備工事を実施した。
- ・改正電子帳簿保存法対応と伝票類の電子取引データ保存のためのシステムを導入予定。
- ・特に大きな設備投資は実施しない。

【今後の見通し】

- ・感染症の影響で先行きは不透明であり、どちらともいえない。
- ・ワクチン接種が進んでもすぐに元の生活に戻れる状況ではなく、行動自粛がより厳正になった場合の影響も考えられる。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置があり、厳しい状況が続いている。
- ・助成金で延命してきたところも、廃業に踏み切るといった話も聞こえてきた。
- ・今後廃業や業態変更を余儀なくされるケースが増加する見通し。

【景況感】

- ・景況感は不況である。

【受注高】

- ・企業の送迎バス需要の取り込み等新たな分野の開拓により、前期比では受注高が増えた。
- ・前年同期比では増加しているが、前々年比では3割程度にとどまっている。
- ・感染症の影響で団体旅行は依然厳しい状況にある。

【受注価格】

- ・受注価格はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・ワクチン接種が進み一時は明るい兆しが見えたが、変異株等の影響で感染の再拡大が懸念され、出口が見えなくなっている。

5 建設業

【業界の動向】

- ・緊急事態宣言の影響で8月は前年同期比で動きが鈍かった。
- ・近隣同業で廃業等の動きはなかった。

【景況感】

- ・前期に引き続き商談は好調に推移しており、景況感は好況である。
- ・景況感は普通である。

【受注高】

- ・受注は前年同期比ではほとんど変わらない。
- ・売上高は増加した。
- ・民間の受注が中心のため外部要因で動きが変化する。

【受注価格】

- ・木材価格等のコスト増の影響で受注価格も上昇している。
- ・受注価格はほとんど変わらない。

【資材価格】

- ・鋼材価格が上昇した。
- ・木材と部品等のコストが上昇した。

【採算性】

- ・コスト増加分を販売価格に上乗せ出来ており、採算性は良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【今後の見通し】

- ・ワクチン接種の進捗により収束に向かえば、不動産市場も活発になる可能性がある。
- ・今後の見通しはどちらともいえない。
- ・コロナ禍の長期化により、今後廃業が増える可能性がある。